



風の子

糸魚川市立木浦小学校

H30 学校だより No.13

平成 30 年 11 月 9 日発行



銀杏輝く

つなごう 2

校長 富永 浩文

木浦の川にも、サケが遡上する季節となりました。一匹、二匹とまばらにみられる光景も、やがて海嘯（かいしょう）のようになって流れに抗い上流に向かいます。体をくねらせ、力を振り絞って命の中継地点を目指すサケ。じっと見ていると、ひたむきな姿に声援を送りたくなります。気を留めず通り過ぎれば、晩秋の秋の風景の一部です。しかし、木浦に赴任した今年、これまでと違って秋の風景の中に焦点化され、そこだけ哀愁漂う光景に写ります。明日へのつながりを実感します。

さて、10月26日（金）に、木浦公民館との共催で、「木浦ふれあいコンサート」を開催いたしました。ピアノ、ヴァイオリン、口笛、声楽の美しいハーモニーが、小春日和の暖かな秋の空気の中をゆったり流れ、私たちをやさしく包みました。60人余りの保護者、地域の皆さんからお越しいただき、子どもたちと共に2時間弱の豊かな時間を楽しみました。プロの音楽家による一流の演奏にも心を動かされましたが、演奏家と子どもたちによる糸魚川復興の歌「つなごう」の発表には、胸が熱くなりました。「それいけ木浦探検隊」の歌も力強くて、頼もしさを感じました。一人ひとりの気持ちのこもった声と一生懸命な姿に、涙を流しながら聴いている方もいらっしゃいました。子どもたち20人の姿がそこだけクローズアップされて輝いて見えました。

感動は続きます。翌日27日（土）は、中学校の文化祭、合唱祭でした。1年生から3年生まで、各学年の持ち味を生かした、美しく、迫力のある合唱の数々がステージで披露されました。その歌声に何度となく胸が詰まりました。最後の全校合唱で感動も頂点に達しました。能生中学校の先輩のすごさ、美しさを肌で感じました。うれしさと感謝の気持ちで会場を後にしました。そして帰り道、「木浦小の子どもたちも、やがてあのステージに立つんだな。あのような素晴らしい先輩にあこがれをもってほしいな。」と思いました。

6日（火）の全校朝会では、木浦小、能生中両方の発表を鑑賞しました。そして、子どもたちに話しました。「素晴らしい音楽活動の伝統をつないでいこう。そして、中学校の先輩を目標に、希望をもって前に進んでいこう。」と。



未来を拓こう 夢をもって 胸をはって

2つの音楽会を終えて



木浦ふれあいコンサート 子どもたちの感想から *一部、ひらがなを漢字に直しています。

地域の人にとってたくさん来て、とても緊張しました。まず、渡辺直人さんとお客さんたちで、昔の中学校の校歌を歌いました。昔の中学校の校歌を聞くことができよかったです。次に、ピアノの飯田俊明さん、ヴァイオリンの高木 弾さん、口笛の柴田晶子さんが来て、演奏をしてくれました。柴田さんが口笛を吹きながら人形を動かしていて、おもしろかったです。ピアノの飯田さんがリクエストした4つの音を使って、目の前で曲を作ってくれました。すごくびっくりしました。最後に、「つなごう」と「それいけ木浦探検隊」を歌いました。まちがえずに歌えてよかったです。とても緊張する体験をすることができてうれしかったです。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

はじめはあまり笑顔じゃなかったけど、最後には笑顔で歌えてよかったです。緊張したけどまちがえずに楽しく歌えたので良かったです。ヴァイオリンと口笛の演奏は初めて聞きました。口笛は、高い音や低い音がすごくきれいな音でした。ヴァイオリンは、指を使ったり、棒のようなもの（弓）を使って演奏したりしていて、きれいな音でした。ピアノは、すごく速く弾いたり、伴奏でゆっくり弾いたりしていて、いろんな音が聞けたのでうれしかったです。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

すごく緊張しました。「つなごう」の発表では、泣いている人もいたので、「すごく心に響いたんだろうな。」と思いました。ピアノでは、一しゅんで曲を作ったのが、「ぼくにはできないな。」と思いました。ヴァイオリンは、間近で聞くのは初めてだったので感動しました。口笛は、「あんなに大きい音を出せるんだ。」と思いました。・・・



糸魚川市音楽発表会 子どもたちの感想から

***一部、ひらがなを漢字に直しています。**

課外で練習したときよりも、指揮を見て演奏できたのでうれしかったです。まちがえずに演奏できてうれしかったです。演奏する前は、たくさんの方がいて少しきん張したけど、発表が始まったらとても楽しくなりました。みんなであわせて演奏ができたので心に残りました。磯部小学校で「つなごう」という曲でみんなばらばら（パートごと）に歌っていていいなと思いました。南能生小学校でベルを使って演奏していてかっこよかったです。まちがえず、つかえずにやっていてすごいなと思いました。青海中学校や能生中学校の発表できれいな声で歌っていたのですごく上手でした。ひすいの里総合学校の発表で、体を動かしてやっていておもしろかったです。・・・・・・・・・・・・・・・・

私は、間違えずにできてよかったです。みんなの音を聞いて、演奏ができて、よかったです。また、指揮を見て演奏ができてうれしかったです。音の大きさを大きくしたり、小さくしたりするところを変えられてよかったです。いい演奏になってよかったです。他の学校では、まず、最初の青海小学校は、今はやっている曲を演奏していていいと思いました。南能生小学校は、ベルで演奏していたのがすごくきれいでした。能生小学校ではたくさんのパートに分かれてやっていていいと思いました。磯部小学校では、私たちも歌った「つなごう」で、歌う人が一歩前に出ていていいと思いました。どの学校もよかったです。

・・・・・・・・・・・・・・・・

3回目の発表でも、とても緊張しました。文化祭の時よりもうまくできたかなと思いました。ステージがとても大きくて、初めてのようでした。最後に下早川小学校の校長先生が一校一校のいいところや直したらもっといいところを教えてくれたので、今度演奏する機会があったら、そのところを直していい演奏をしたいです。他の学校の演奏もすごくて、一番最初の青海小学校で、最初からとてもいい演奏をされていてびっくりしました。「アイディア」という曲でとてもきれいな音が出ていました。中学校の人たちも大人らしい歌声でとてもいい声だなと少し感動しました。他校のみんなが一生懸命に頑張っていたのでいいなと僕は思いました。・・・・・・・・・・・・・・・・

きまも 木守り

今年は、柿が当たり年だったのか。柿をたくさんいただきました。残念ながら、柿がちょっと苦手な私は、味わうことよりも、その色つやを愛でることの方が好きです。家では、どちらかというと、柿を置物・飾り物としています。知らぬうちに家族がそれをいただいてしまい、後には、ほのかな香りだけ漂い、その存在の記憶を残すのみです。

たくさんの柿をたわわに実らせた木は、やがてもぎ取られ、鳥がついばみ、風に吹かれ落下し、少しずつなくなり、最後には実が一つ、二つ残ります。昔の人はこれをそのままにしておき、「木守り」と呼んだそうです。今は、柿の実にそれほど執着することはないと思います。ところが昔は、収穫に感謝し、また来年の豊かな実りを願うために、わずかに残しておくのだそうです。そのことから木守りと呼ばれています。或いは、木名残り、木名乗りと呼ぶとも言われます。今年も、柿を味わうことはありませんでしたが、自然の恵みに大いに感謝したいと思います。

先日、民生委員の伊藤さんのご厚意で、子どもたちにキウイフルーツの収穫をさせていただきました。およそ1時間間に、たくさんのキウイを手に取り、摘果することができました。子どもたちは、キウイでいっぱい袋を高く掲げ、喜んで学校にもどってきました。伊藤さんありがとうございました。「木守り」はまだ、木になっているかなと気になっています。



実が一つ 木を守る
グラウンド前の柿の木